

【野菜】の【低温】対策について

<1～3月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【野菜】（施設野菜）

（1）予想される被害状況

低温による草勢低下。収量減。

（2）事前対策

地温の低下を防ぐため、通路への敷き藁の設置を行う。

暖房機を点検・整備し、不着火や不完全燃焼等が発生しないように整備しておくとともに、燃料が十分にあるか、設定温度が適正か等を確認しておく。

内幌3重被覆やサイドスカートなどのすきまを点検・補修して、施設内の温度低下を防ぐ。

極端な低温が予想される場合は、暖房機の設定温度を1～2℃高めに設定しておく。

（3）事後対策

適温管理（被覆資材の開閉作業、加温機の設定）の実施。

【露地野菜】（トンネル栽培）

（1）予想される被害状況

低温による枯死、生育遅延。

（2）事前対策

ビニル、不織布等資材を設置し、低温による枯死、草勢低下を防ぐ。

（3）事後対策

トンネルの開閉管理（夜間の密閉、昼間の換気）を徹底する。

【さといも（中晩生）、しょうが、かんしょ】

12月以降は、凍傷が発生するため、収穫、貯蔵作業を急ぐ。さといもをほ場で貯蔵する場合はマルチを除去し再度培土を行う。かんしょとしょうがはほ場で貯蔵しない。

【だいこん、はくさい】

低温に当たると、花芽が形成されて抽台するため、低温に当たらないようにする。